

「女性政治家」「女性候補者」が増えることの社会的影響に関する調査報告

2022年7月18日 社会調査支援機構 チキラボ

RQ.

1. 女性に関わる政策に与える影響
2. 資金配分への影響
3. 社会に与える影響
4. その他の論点:2020年のレビュー「女性の政治的的代表性と政策への実質的影響」(Hessami & da Fonseca, 2020)より
5. 参考文献 (アルファベット順)

RQ.

女性政治家や女性候補者を増やすことの重要性が、各所で指摘されるようになった。社会心理などの分野では、少数者のロールモデルが存在することや、クリティカルマス（一定以上の当事者の参加）が達成されることにより、ポジティブな効果があることはすでにしてきされている。では、女性政治家や女性候補者が増えることそのものは、どのような社会的影響を与えるのか。この問いに対して参考となる先行研究を探る。

1. 女性に関わる政策に与える影響

1980年から2011年の間において22カ国の先進民主主義国を対象に、仕事と家庭への両立支援政策への支出結果を検証した研究によると、議会クォータ制を導入すると母親の就労を促進する育児関連支出が増加し、母親の就労を制限する家族扶養手当の支出は減少していたことが明らかとなった(Weeks, 2019)。

ドイツのバイエルン州において2002年、2008年、2014年の地方議会選挙に立候補した224,448人の候補者を対象とした調査では、女性候補者が勝利すると、公的保育の拡充が40%加速していたことが明

らかになった。また、議事録の情報からは、女性議員が1人増えるだけで、女性議員の発言回数の増加や、議会における保育関連の議論の活性化をもたらすなど、議会でのコミュニケーションに変化が起きたことが示された(Hessami & Baskaran, 2019)。

1970年から2000年の間において19カ国の民主主義国家を対象に分析した研究では、女性の国会議員の存在は、産休・育休政策の法案通過やその政策範囲に大きく影響を与えていた。この影響は、政党イデオロギーがもたらす影響よりも大きかった(Kittilson, 2008)。

米国での調査では、女性州議会議員が議会内でクリティカル・マスに達すると、中絶規制に関する州政策に影響（例：プロライフ法案の阻止）を与えていた。一方、公的資金援助には影響を与えていなかった(Berkman & O'connor, 1993)。

第104回から第107回連邦議会における法案提出と議場での発言の分析に基づき、同じ選挙区で男性と交代した女性について検討したところ、ジェンダー平等、育児、労働者のフレックスタイム、中絶、最低賃金引き上げといった問題に焦点を当てる傾向が強かった(Gerrity et al., 2007)。

女性議員の増加は…

→社会の育児環境や女性就労環境の改善につながっている。

→議会の質的な向上にもつながっている。

→議会全体の合意形成において、「女性」当事者の主張が重視されるようになる。

→「これまで焦点化されにくかった論点」への積極的な取り組みにつながる

2. 資金配分への影響

ストックホルム大学の研究では、女性議員の割合が1ポイント増加すると、医療と社会福祉への政府支出の対GDP比がそれぞれ0.18、0.67ポイント増加していた(Chen, 2010)。

1965年から2011年の間に対外援助に積極的なコミットメントをした28カ国を対象とした分析では、対外援助額の対GDP比と女性の議席占有率との間に強い正の相関が認められた。具体的には、女性代表が10%ポイント増加すると、一人当たりGDPに占める援助の割合が平均で30%増加していた。例として、現在ある国で議会の22%が女性という構成の場合、女性が1/3という構成になれば、対外援助はGDPの0.51%から0.69%に上昇すると予想される(Hicks et al., 2016)。

米国においてクォータ制の導入と実施のピーク時（1995年～2012年）のデータを分析した研究では、“クォータ制ショック”（女性議員比率の大幅な増加に関連したインパクトを指す）は、公衆衛生に対する政府支出の増加をもたらしていた。さらに、これらの支出の増加は、軍事支出など他の支出カテゴリ

一の相対的な減少によって相殺されることがわかった。この結果は、クォータ制が政府の優先順位に影響を与え、有限の財源を再分配し、ゼロサム的な予算決定を行うことになるという発見であった。この結果は、クォータが議会を多様化することで、本質的な立法機能において確立された権力構造を崩壊させ、一般に男性が優先する分野（防衛）から、女性が優先する分野（公衆衛生）へと資金を再配分することができることを示唆している(Clayton & Zetterberg, 2018)。

1970年から2000年までの22の民主主義国家の国防費と紛争行動を分析した研究の結果によると、政府の党派性や社会における女性の権利を調整した後でも、立法府における女性の割合が増加すると、国防支出や紛争行動が減少することを実証した。同時に（逆に）、女性が行政府の最高責任者や関係閣僚に就任した場合、男性よりも国防支出や紛争行動が増加することが示された。これは、女性は外交政策において「弱い」というステレオタイプを克服しなければならないという解釈と整合的である。

しかし、立法府における女性代表の比率が高いほど、女性役員のタカ派的な行動が緩和されていた。また、立法府に占める女性の割合が同じでも、“候補者中心の制度”では、“政党中心の制度”よりも国防費が削減されていた。候補者中心の制度では、所属政党に縛られることが少ないので、実質的に女性を代表する自由度が高いと考えられる。

なお、“候補者中心の制度”と“政党中心の制度”の差は、女性の登用が進むにつれて（女性の割合が増加するにつれて）減少していた。この結果は、候補者中心の制度の方が女性代表としてより効果的である可能性を示唆しており、政党中心の制度の方が女性の実質的の代表を確保しやすいとする一部の主張とは対照的なものとなった(Koch & Fulton, 2011)。

女性議員の増加は…

→医療、対外援助、公衆衛生への積極度が増す

→国防支出や紛争発生率が下がる。ただし、女性閣僚となった場合、その逆となる

3. 社会に与える影響

欧米の20カ国あまりを対象とした調査分析では、女性国会議員が多い国ほど、思春期年代の女性（ここでは14歳）は友人と政治について議論することが明らかになった。またそのような国では成人女性も政治について議論し参加する傾向が強いことが示された。女性議員の存在は、年齢に関係なく政治的議論を活発にするが、その影響は、高齢者より若年者の方がはるかに大きかった(Wolbrecht & Campbell, 2007)。

ヨーロッパ18カ国を対象とした調査では、地域ガバナンスの質が欧州地域の女性の地方政治代表に大きな影響を及ぼしていることが示唆された。汚職は既に特権を持つ者を利する「影の取り決め」の存在を示し、女性に直接的な阻害をもたらしていた(Sundström & Wängnerud, 2016)。

1990年から2010年まで76カ国を対象とした調査分析では、女性代表は汚職を減少させ、汚職は女性の政府参加を減少させていたと考えられた。汚職は男性を優遇する顧客主義的なネットワークを強化するため、女性の代表選出に対する抑止力となることを示唆する(Esarey & Schwindt-Bayer, 2019)。

女性議員の増加は…

→女性主権者の活発な政治議論につながっている

→汚職などの現象減少につながっている

4. その他の論点：2020年のレビュー「女性の政治的代表性と政策への実質的影響」

(Hessami & da Fonseca, 2020)における議論より

<インドにおける研究>

インドにおいては、女性代表は公共財、特に保健・教育分野への高い投資をもたらした。さらに、これらの投資は、教育達成におけるジェンダー格差の解消、子どもの死亡率の低下、経済パフォーマンスの向上といったゴールに貢献していた。

<党か、性別か>

女性も男性も、第一に党派的である。州議会の点呼データを用いた分析で示されたように、議員の政党アイデンティティは、提示する選択肢や作成する政策課題に影響を与えていた(Osborn, 2012)。党や選挙区の影響を制御した場合、議員の性別は第103～105回連邦議会における議員の点呼行動の「リベラルさ」を予測しないことが明らかになっている(Schwindt - Bayer & Corbetta, 2004)。第108・109議会の点呼票の分析では、共和党の女性は男性議員とは思想的に区別がつかないと結論づけられていた。これは、厳密に「女性問題」に焦点を当てた分析であっても同様であった(Frederick, 2009)。

<女性市民への影響>

多くの研究者が、女性候補や当選者の存在を、女性市民の政治的態度や参加に結びつけている。例えば、女性下院議員候補者の存在は、政治的関心や議論の度合いと関連する社会人口学的指標や態度指標を統制した後でも、女性有権者の政治的議論への意欲を高めていた。また、女性議員の割合が高いほど、女性市民の対外的効力感が高まっていたという報告もある。しかし、女性有権者が政治的関心と効果を高めるのは、議員が自分と同じ政党に所属している場合だけかもしれないという議論もある(Reingold & Harrell, 2010)。

女性議員の増加は…

→保健・教育などへの支出を増やし、各種パラメーターを上昇させている

→女性議員だからといって「リベラル」「保守」いずれかに分類されるわけではない

→女性有権者の政治参加を促す可能性がある

※

これらの結果は、あくまで国外のさまざまな先行研究に基づくもので、直ちに現代の日本に当てはまるとは限らない。しかし、世界各国で、女性政治家の増加による影響への関心が高まっていること。そしていくつかの研究で、ポジティブな「議会影響」「社会影響」が示唆されていることがわかった。

5. 参考文献（アルファベット順）

- Berkman, M. B., & O'connor, R. E. (1993). Do women legislators matter? Female legislators and state abortion policy. *American Politics Quarterly*, 21(1), 102-124.
- Chen, L.-J. (2010). Do gender quotas influence women's representation and policies? *The European Journal of Comparative Economics*, 7(1), 13-60.
- Clayton, A., & Zetterberg, P. (2018). Quota shocks: Electoral gender quotas and government spending priorities worldwide. *The Journal of Politics*, 80(3), 916-932.
- Esarey, J., & Schwindt-Bayer, L. A. (2019). Estimating causal relationships between women's representation in government and corruption. *Comparative Political Studies*, 52(11), 1713-1741.
- Frederick, B. (2009). Are female house members still more liberal in a polarized era? The conditional nature of the relationship between descriptive and substantive representation. *Congress & the Presidency*.
- Gerrity, J. C., Osborn, T., & Mendez, J. M. (2007). Women and representation: A different view of the district? *Politics & Gender*, 3(2), 179-200.
- Hessami, Z., & Baskaran, T. (2019). Competitively elected women as policy makers. *Available at SSRN 3517052*.
- Hessami, Z., & da Fonseca, M. L. (2020). Female political representation and substantive effects on policies: A literature review. *European Journal of Political Economy*, 63, 101896.
- Hicks, D. L., Hicks, J. H., & Maldonado, B. (2016). Women as policy makers and donors: Female legislators and foreign aid. *European Journal of Political Economy*, 41, 46-60.
- Kittilson, M. C. (2008). Representing women: The adoption of family leave in comparative perspective. *The Journal of Politics*, 70(2), 323-334.
- Koch, M. T., & Fulton, S. A. (2011). In the defense of women: Gender, office holding, and national security policy in established democracies. *The Journal of Politics*, 73(1), 1-16.
- Osborn, T. L. (2012). *How women represent women: Political parties, gender and representation in the state legislatures*. Oxford University Press.
- Reingold, B., & Harrell, J. (2010). The impact of descriptive representation on women's political engagement: Does party matter? *Political Research Quarterly*, 63(2), 280-294.
- Schwindt - Bayer, L. A., & Corbetta, R. (2004). Gender Turnover and Roll - Call Voting in the US House of Representatives. *Legislative Studies Quarterly*, 29(2), 215-229.
- Sundström, A., & Wängnerud, L. (2016). Corruption as an obstacle to women's political representation: Evidence from local councils in 18 European countries. *Party Politics*, 22(3), 354-369.
- Weeks, A. C. (2019). *Quotas Matter: The Impact of Gender Quota Laws on Work-Family Policies*.
- Wolbrecht, C., & Campbell, D. E. (2007). Leading by example: Female members of parliament as political role models. *American Journal of Political Science*, 51(4), 921-939.